

平和学習

8月9日の長崎原爆の日が今年もやってきました。本年も登校日とし平和学習を行いました。本年は校長先生による講話の後、長崎原爆に関するドキュメント映画を視聴しました。

最初に城校長先生による講話を行いました。戦争を経験された校長先生のご実父、ご祖父のお話の中で、特に、夢でうなされる続けるご祖父の姿から、「戦後年月が経っても戦争の悲惨さは強烈に無意識層の中に刻まれることを思い知らされた」、というお話が印象に残りました。また、「私たちはたまたま今この平和な世の中において、被爆した人々はたまたま戦争中の世の中にいた。しかしながら、それで終わらせるのではなく、私たちの命は、その戦争、原爆から生き延びてきた人々から受け継いできた命である。これから先、君たちは自分の命を大切に、次への命へつないでいかなければならない」と、命の大切さを説かれました。



続いて「ナガサキの少年少女」というタイトルのDVDビデオを視聴しました。原爆がどう生まれ、どのようにして戦争に利用されたか、またその原爆を受けた長崎の人々の地獄の苦しみが体験談を含め生々しく迫ってくるものでした。DVDビデオ視聴の後は教室に戻り、感想文を書き、原爆投下時間の11時02分に合わせ、犠牲者に向けて鎮魂の黙祷を捧げました。

本日の平和学習では、生徒全員が戦争の悲惨さを再認識し、世界平和へ向けて何らかの決意をしてくれたものと確信しています。



生徒の感想文より

「被爆した人がどんどん亡くなっていて、若い人たちに伝えるという人がいなくなっている中、小学校の頃から続けてきた平和学習で学んだことを思い出しながら、次は自分たちが伝えていかなければならないと思います。その中で、今後どうすれば日本が平和になっていくのかと考える人が出てくると思います。」 (1年男子)

「鑑賞をしているだけなのに、とても苦しいし、悲しい気持ちになりました。私は、今、戦争があっただけであって、もし時代が違ったらと思うと、とても怖いです。だからこそ、今、この時代でできること、戦争のない平和な世の中を築きあげるためにも、自分自身でできること、本当にたくさんあると思います。平和を築く第一歩として、まず、友達、自分の周りの人を傷つけないようにしたいと思いました。」 (2年女子)

「私はこの長崎に生まれ、今までに何度も8月9日という日を迎え、平和学習を通して戦争の恐ろしさを学んできました。被爆者の方が伝えてきたものを、そのまま消えてしまわぬよう、私たちがしっかりと伝えていきます。」

(3年女子)